

昨年末に公表された

「中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書」を読んで

2025年1月14日

日本自閉症協会 政策担当 今井 忠（副会長）

1.いきさつ

この死亡事案とは、各種報道によれば、昨年（2024年）7月、転居先の千葉県長生村の自宅で重い知的障害のある44歳の次男を殺害したとして78歳の父親が起訴された事件です。

死亡した次男は神奈川県立中井やまゆり園（以下、園）の短期利用を5月30日に終了し、家族は6月上旬に神奈川県から千葉県長生村に転居し、その翌月に事件が起きました。

中間報告書によれば、死亡した本人は小さい時から神奈川県内でいくつかの福祉サービスを受けており、19歳の時には園を一時利用し、25歳では園に入所したが、翌年に家族の希望で退園となったものの、その後も短期での利用がされていました。

事件の翌月の8月には検証チームが発足し、12月10日に表記中間報告書が公表されました。

2.中間報告書について

- ① 事件後ただちに関係者を中心とした検証チームを立ち上げ検討を進めてこられたこと、また、ご家族の承認のもと、報告書を公表されたことは極めて重要だと考えます。
- ② 本人の小さい時からの経過、とくに成人以降の経過を詳細に記述されていることは参考にする際の原点になるものであり、勝手な憶測に陥らないためにも重要だと考えます。
- ③ 家族と本人が記述されているような状態にあるときには、「本人への直接支援」と「家族への支援」の両方が必須です。その前提で、最終報告書をまとめていただくにあたって本人への直接支援に関して、以下の点をさらに掘り下げていただきたいと思っています。
 - a. 本人は強度行動障害の状態にあったと推測しますが、眠ってくれない、放尿する、放便する、裸になるなどの状態が継続すると、親子共倒れになります。なかでも「眠ってくれない」が続くと深刻です。このような場合一般的には、複数のスタッフが交代で支援できる施設入所利用が選択されると考えます。ただし、今回のような困難ケースに対する支援実力があることと、本人用の物理的環境と個別プログラムを用意できることが前提になります。また、私たちの経験では、多くの場合状態改善には数年を要しています。
「6.今後の対応」にあるように、施設入所に成功しなかったわけを掘り下げてほしい。
 - b. 施設入所が本人に適さない場合には、24時間の訪問介護（家族との同居を前提としない）が選択肢になると考えますが、その選択肢を検討してほしい。
 - c. 今回のような状態に対する支援資源が県内にあったのか、なかったのかを検討してほしい。
 - d. 服薬に課題はなかったのかも別途検討してほしい。

今回のような悲惨な事件を二度と起こさないために、私たちは検証委員会の検討に強い関心を持ち、参考にしていきたいと思っています。

以上

中間報告書：https://www.pref.kanagawa.jp/documents/116023/chukan_houkokusho.pdf